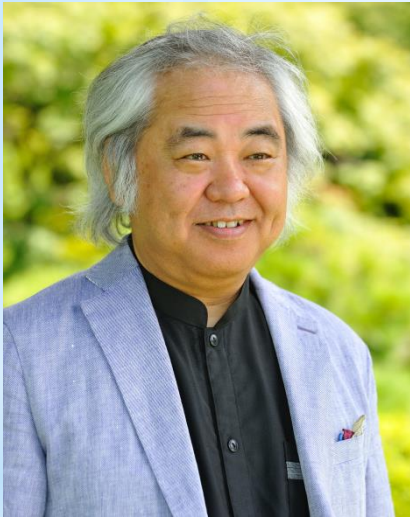


出演者紹介

■一般社団法人 大阪コレギウム・ムジクム

1975年、指揮者当間修一により創設。室内オーケストラ(シンフォニア・コレギウムOSAKA)と合唱団(大阪ハインリッヒ・シュッツ室内合唱団、大阪コレギウム・ムジクム合唱団)より成り、378回を数えるマンスリーコンサート、いずみホールでの定期公演など大阪を中心に各地で活発な演奏活動を続ける。5回にわたるドイツ・ヨーロッパ公演ではシュッツ協会に二度招かれ、各地で大絶賛を得る。現在30枚のCDをリリース、レコード芸術誌で数度アカデミー賞にノミネートされる。近年は千原英喜作品集を8巻までリリースし、高く評価される。受賞暦も数多く、特に平成23年度大阪文化祭賞グランプリを受賞。



公益財団法人関西・大阪21世紀協会撮影

■当間修一（とうま しゅういち）

1949年大阪生まれ。大阪音楽大学卒業。在学中にバッハの音楽に傾倒、オルガニストおよび通奏低音奏者として研鑽を積む。1976年に室内オーケストラ「アンサンブル・シュッツ」(現・シンフォニア・コレギウム大阪)を、翌年に大阪ハインリッヒ・シュッツ合唱団を創設。以降常任指揮者として、海外を含む数々の演奏会で、国内外より高い評価を得ている。レパートリーはルネサンス音楽から現代音楽とし、「ハインリッヒ・シュッツの作品の演奏」を活動の1つの柱にし、その作品を日本に紹介し続けるとともに、合唱団とオーケストラにおいて、ルネサンスから現代音楽までの魅力ある作品を「現代に生きる」演奏で紹介し続けている。他にも合唱コンクールの審査員や、多くの合唱団での指揮・指導など、合唱の普及と発展にも力を尽くしている。2001年にABC音楽賞「クリスタル賞」を、2003年に関西合唱連盟「長井賞」を受賞。2012年1月全音楽譜出版社より無伴奏混声合唱曲集「この愛しきものに」(当間修一作品集)刊行。2013年、テキスト「ヴォーチェ・ディ・フィンテとその実践」(全音楽譜出版社)およびDVD「ヴォーチェ・ディ・フィンテによる合唱のための声づくり」(ブレーン株式会社)刊行。

1996年大阪文化祭賞奨励賞、1998年文化庁芸術祭音楽部門優秀賞、2011年大阪文化祭賞グランプリ、2014年「第49回大阪市民表彰(文化功労部門)」を受賞。

■大阪ハインリッヒ・シュッツ室内合唱団

毎年オーディションにより選ばれたメンバーにより構成される。大阪コレギウム・ムジクム合唱団の中核としての活動と同時に独自の活動も活発に行い、通算370回を超えるマンスリー・コンサートや年2~3回の定期公演(いずみホール)、京都公演、東京定期公演ほか各地での特別公演等で熱心なファンを増やし続けている。既に32枚のCD、「J.S.バッハ/ミサ短調」「H.シュッツ/音楽による葬送」「H.シュッツ/宗教的合唱曲集(全曲)」「H.シュッツ/ヨハネ受難曲」「魂の響き~大阪コレギウム・ムジクムの軌跡」「柴田南雄・その響きI」「柴田南雄・その響きII」「ホーリーナイト」(クリスマス・キャロル集/サンパウロAVC制作)「武満徹/うた・風の馬」「H.シュッツ/カンツィオーネス・サクレ(全曲)」「柴田南雄・その響きIII」「From German Churches ~ '98年ドイツ演奏旅行ライブ」「方舟/祈祷天頌」「永訣の朝/おらしょ」「邪宗門秘曲/木下牧子」(株式会社フォンテック制作)「祝福/木下牧子 無伴奏作品集」(ビクターエンタテインメント株式会社制作)、CDブック「般若心経」(Bell musica制作)、「千原英喜作品集」第1~6・8巻、千原英喜作品集特別盤「月天子/雨二モマケズ」、「星めぐりの歌~宮沢賢治の世界~」「日本・こころのうた」(音楽ほほえみ基金制作)、「この愛しきものに~当間修一作品集~」を発表。「レコード芸術」誌のレコード・アカデミー賞に数度ノミネートされた。また、5回にわたるヨーロッパ、ドイツ公演ではその透明なハーモニーと緻密なアンサンブル、内容に迫るメッセージ性が各新聞評で絶賛された。

1996年大阪文化祭賞奨励賞、1998年文化庁芸術祭音楽部門優秀賞、2001年ABC音楽賞「クリスタル賞」、2011年大阪文化祭賞グランプリを受賞。